

青森県立柏木農業高等学校

住所 平賀町荒田字上駒田一三〇

生徒数 男子四七六名 女子二〇七名

部員数 男子二一名

顧問 小田桐 駿介

記憶がかなりうすれているので、不確かな部分もありますが、本校空手部（躰道も含む）の歩みについて、自分なりに述べてみることにする。

◇空手道部の設立

昭和三十九年四月に佐藤信隆先生が赴任（新卒）なされて設立されたという。流派は「日本空手協会」のようで、部員は七名位であった。そして、佐藤先生は四年位で転勤し、五所川原工業高校に移ったようだ。現在、彼は、県教育委員会指導課の生徒指導プロジェクトチームに所属している。

◇本校空手道部の伝統的精神

「平常の心が道である」この一言である。これこそ、武道に共通するものであり、宮本武蔵も「兵法の道における心の持ち方は、平常の心と変わってはならない」と説いています。そのためには、ふだんから自己管理し、心技体を充実させなければならぬというのが伝統である。

◇白木時代へ

昭和四十三年四月、佐藤先生の後継者に白木五美先生に白羽の矢が立ち、三年程顧問をなされたようだ。ところが、この時本校

OBの関係からか流派が日本空手協会から「和道流」に変わった。

◇一時、空手部廃部

そして、昭和四十七年、残念ながら部員が皆無となり、廃部となるのだが、奇妙なことに時同じくして、本校に「躰道」が誕生した。この時の顧問が吉田幸雄先生で、七年間継続するのだが、結構強くて東北大会、全国大会等にも出場したという。吉田先生は現在も本校の農業科教師である。

◇空手部ついに復活

昭和五十四年、コーチの関係からと推測できるのだが、「躰道」がなくなり、再び「和道流」空手部が復活するのだ。顧問は田沢安信先生（現在本校勤務）から福士昌良先生（本校退職）にバトン・タッチされて隆盛期を迎えた。

福士先生は、生徒に礼節を重んじる指導に徹した。お互いの人格を尊重し相手に敬意をもって対することこそ武の道であり、徒らに力競べ、技競べにおちいることのないように強く戒めている。「礼に始まり礼に終わる」がモットーであったのである。

◇昭和六十二年四月、現顧問へ

前顧問の福士先生のご退職の関係もあって、現顧問の小田桐に移る。ところが、空手道には全く無縁であり、試合があれば引率するという有様で満五年が過ぎました。ところが、途中平成元年が移り目として入っているので、実際はかなり長く感じられる。

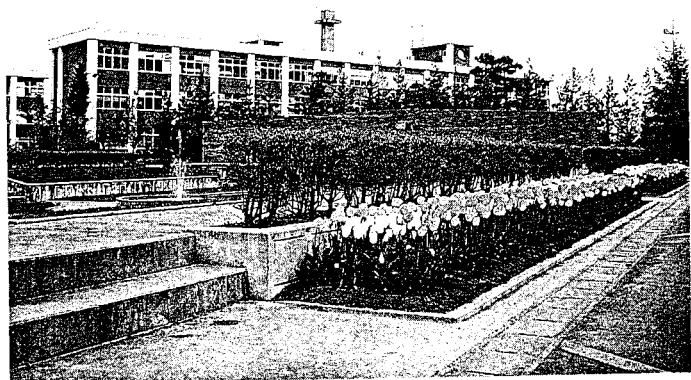
この間、空手道部としてあったこと、本校の素顔等について列挙してみることにする。

1、部員数について

年平均約十五名程度であり、本年度は二十一名である。一年、十一名。二年、七名。三年、三名が内訳であり、年により女子がいる年といない年があった。なお、一時女子も試合に出場したことがあった。

2、試合の出場状況について

この五年の間、県高校春季大会、高校総体、新人大会には、すべて参加した。型の方だが、こちらの方は個人型だけ一回出場したことがある。残念なことに、指導者の微力の関係から余り「勝った」記憶がない。



3、和道流大会について

本校の流派は和道流であるため、毎年出ているが、この間優勝できたのは、わずか二回である。その中心になった生徒は、成田憲一君と斎藤法雄君であり、両君とも現在は立派な社会人となっている。そして、この四月から本校空手部OBの福士祐規氏が着任してきたので、これからが楽しみである。コーチとして毎日練習に励んでいる。

最後に、本校の沿革について触れてみる。

明治34年10月	柏木町村他四か村組合立柏木町高等小学校創立
大正15年4月	同組合立柏木町農学校設立開校
昭和3年3月	青森県に移管、青森県立柏木町農学校となる
11年10月	創立十周年記念式典挙行
12年2月	青森県立柏木農学校と改称
18年8月	青森県立柏木農業学校と改称(甲種)
22年3月	青森県立柏木農業高等学校と改称(学制改革)
24年4月	普通科設置
31年5月	平賀町大火により旧校舎類焼
33年10月	校舎落成並びに記念式典挙行
38年3月	普通科廃止
40年3月	尾上校舎、体育館を尾上町より寄付
44年3月	平賀町寄付による定時制教室完成
52年4月	柏農山荘、大鱈スキー場に完成
53年8月	新校舎建築工事着工
55年3月	定時制課程廃止
55年6月	新校舎へ移転
56年3月	尾上校舎用途廃止
57年4月	旧校舎跡地に建学の碑完成除幕
61年9月	創立六十周年記念式典挙行
平成元年4月	学科再編成始まる
平成4年4月	佐藤順一氏校長として赴任